

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 野井 未加	職名 准教授	学位 修士
----------	--------	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU ハイリスク児 心的帰属 家族への援助 極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助 保育所相談援助 個別支援計画

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその変容過程に関する研究」 ・「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」 ・「保育士との協働による気になる子どもへの個別支援計画立案と実行に関する研究」

担 当 授 業 科 目
ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) カウンセリング論(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 心理学研究法(前期)(福祉学科) 障害者心理学(前期)(福祉学科) 母子の心理・社会学(集中講義)(助産別科) 心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 保育相談支援(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】</p> <p>ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。</p>
<p>授業科目名【カウンセリング論(前期)(福祉学科)】</p> <p>カウンセリング論では、カウンセリングの基本構造、主要なカウンセリングの段階とそのプロセス、代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセス、カウンセリングのそれぞれの段階において、どのようなことが主題となりやすいのか、そしてクライアントが解決を導き出していくために、カウンセラーがどのような援助を行っていくのかについて、事例を豊富に取り入れ説明する予定であった。しかし受講希望者が1名のみで、その者も1回のみ授業に参加したため、15回の実施を待たずして授業が中断した。</p>

<p>授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】</p> <p>第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどのような影響を受けるのかについて解説することを通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。</p>
<p>授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】</p> <p>児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。</p>
<p>授業科目名【心理学研究法】</p> <p>心理学では、直接観察することができない心理現象を科学的に研究するための様々な方法が開発され、発展してきた。本講義では、事実を明らかにするための「実証」の基本的考え方、心理学における「実験的研究」と「観察的研究」の特徴とその諸手続きについて学ぶことを目的とした。昨年度まで本科目を担当していなかったため、開講時点での学生の学修準備性が不明であったため、必要に応じて「心理統計学」の授業でどこまで学んだかを適宜確認しながら授業を進めた。教科書の各章の要点を受講者各自がまとめ発表させる形式で授業を展開したが、適宜教員が解説を行った。</p>
<p>授業科目名【母子の心理・社会学(集中講義)(助産別科)】</p> <p>前半の4回で基本的な母子関係・父子関係の形成プロセスについて学習をした後、後半4回を筆者が担当した。4回の授業では、親になる準備の段階としての思春期・青年期について概説した後、若年出産の現状などにも触れた。また周産期における女性と家族の心理プロセスについて説明した上で、その際に援助や配慮が必要となる事例について触れることで、実践力につなげる工夫をした。さらに周産期の母親だけでなく、その家族も援助対象であるという視点を伝えるように努力した。</p>
<p>授業科目名【心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科)】</p> <p>福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅱでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説した。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。</p>
<p>授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】</p> <p>心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。</p>
<p>授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】</p> <p>発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。</p>

授業科目名【保育相談支援(後期)(福祉学科)】

保育相談支援では、学生が保育相談支援の意義と基本的視点について理解した上で、保育相談支援に求められる基本姿勢と相談の内容、保育士の専門性を活かした支援の方法について考えることを目的としている。学生には、保育所保育指針における原則や基本姿勢について具体的行動レベルで考える・様々なニーズを抱えた家族の事例に対する支援方法について考える事を課し、その上でグループ討議をしてもらった。グループ討議の基本的姿勢として、答えは一つとは限らない事、他者の意見を評価せずあらゆる可能性を考慮に入れることをルールとして設定した。回を重ねるごとに学生間のグループ討議の様子に変化が見られ始め、「答えを見つける」ことよりも「あらゆる可能性を考えてみる」といった姿勢が見えてきたため、方法論的妥当性は一定程度担保できているものと捉えている。

授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】

心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。ゼミへの参加態度において、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようである。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。

授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】

学生各自がそれぞれ興味のある内容について、レビュー論文を作成した。学生は、3年次の専門研究Ⅰにおいて論文の読み方を学んでいたため文献検索に優れており、論文を批判的に読む力が身につけていたと考えられる。従って、レビュー論文作成にあたって問題意識がはっきりしており、自らの論を進めていく事に意欲的であった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本臨床心理学会	北九州地区委員(2006年4月～現在)	1998年7月～現在に至る
日本特殊教育学会		1998年9月～現在に至る
発達心理学会		1998年2月～現在に至る
西日本心理劇学会		2001年1月～現在に至る
日本リハビリテーション心理学会		1997年4月～現在に至る
九州臨床心理学会		2006年4月～現在に至る
日本心理学会		2008年4月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究業績 総数 (2019.03.19現在) 著書 0(内訳 単0, 共0) 学術論文 0(内訳 単0, 共0) 翻訳 0(内訳 単0, 共0) 学会発表 0(内訳 単0, 共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討	本学	○笹月桃子、野井未加、山本佳代子、文屋典子、樋口由貴子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004年4月～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員	2006年4月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員